



## 2021年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

# 免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## 第3四半期実績

- ✓ 売上高： 主力の内視鏡事業が好調に推移し、第3四半期はプラス成長を達成
- ✓ 営業利益： 販売が好調に推移したことに加え、引き続き販管費の管理を徹底し、第3四半期の営業利益率は約18%を達成。第2四半期からさらに改善

## 通期業績見通し

- ✓ 第3四半期実績が想定よりも好調に推移したことを踏まえ、売上・営業利益ともに上方修正
- ✓ 第4四半期は、緩やかな売上成長を見込んでおり、これまでの販管費抑制の取り組みを継続するとともに、来期以降のさらなる営業利益率改善に向けた投資・施策を実行する

01

---

**2021年3月期 第3四半期  
連結業績および事業概況**

# 2021年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高： 回復基調が継続。累計では減収も、主力の内視鏡事業が好調に推移し、3Qはプラス成長に転換
- 2 営業利益： 累計では減益も、売上の回復と販管費の効率化によって、3Qは大幅な増益。3Qの営業利益率は約18%と高い水準を確保

第3四半期累計実績（4-12月）

参考数値

第3四半期実績（10-12月）

(単位：億円)	第3四半期累計実績（4-12月）		前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後**	第3四半期実績（10-12月）		前年同期比	為替影響調整後
	2020年3月期	2021年3月期				2020年3月期	2021年3月期		
売上高	5,613	<b>1</b> 5,136	▲9%	▲7%	▲390億円	1,929	1,971	<b>1</b> +2%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	3,676 (65.5%)	3,235 (63.0%)	▲12%	▲10%	-	1,248 (64.7%)	1,275 (64.7%)	+2%	+3%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	2,782 (49.6%)	2,502 (48.7%)	▲10%	▲9%	-	932 (48.3%)	887 (45.0%)	▲5%	▲4%
その他の収益および費用等	▲47	▲86	-	-	-	▲28	▲44	-	-
営業利益 (営業利益率)	847 (15.1%)	<b>2</b> 647 (12.6%)	▲24%	▲17%	▲30億円	289 (15.0%)	<b>2</b> 344 (17.5%)	+19%	+23%
税引前利益 (税引前利益率)	805 (14.3%)	619 (12.1%)	-	-	-	271 (14.0%)	336 (17.0%)	-	-
継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	655 (11.7%)	539 (10.5%)	▲116億円	-	-	245 (12.7%)	281 (14.2%)	+36億円	-
非継続事業からの当期利益 (損失)	▲64	▲523	▲459億円	-	-	▲14	▲38	▲23億円	-
当期利益	591	16	▲575億円	-	-	231	243	+12億円	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	591	16	▲575億円	-	-	231	243	+13億円	-
EPS	45円	1円	-	-	-	-	-	-	-

\*継続事業

継続事業

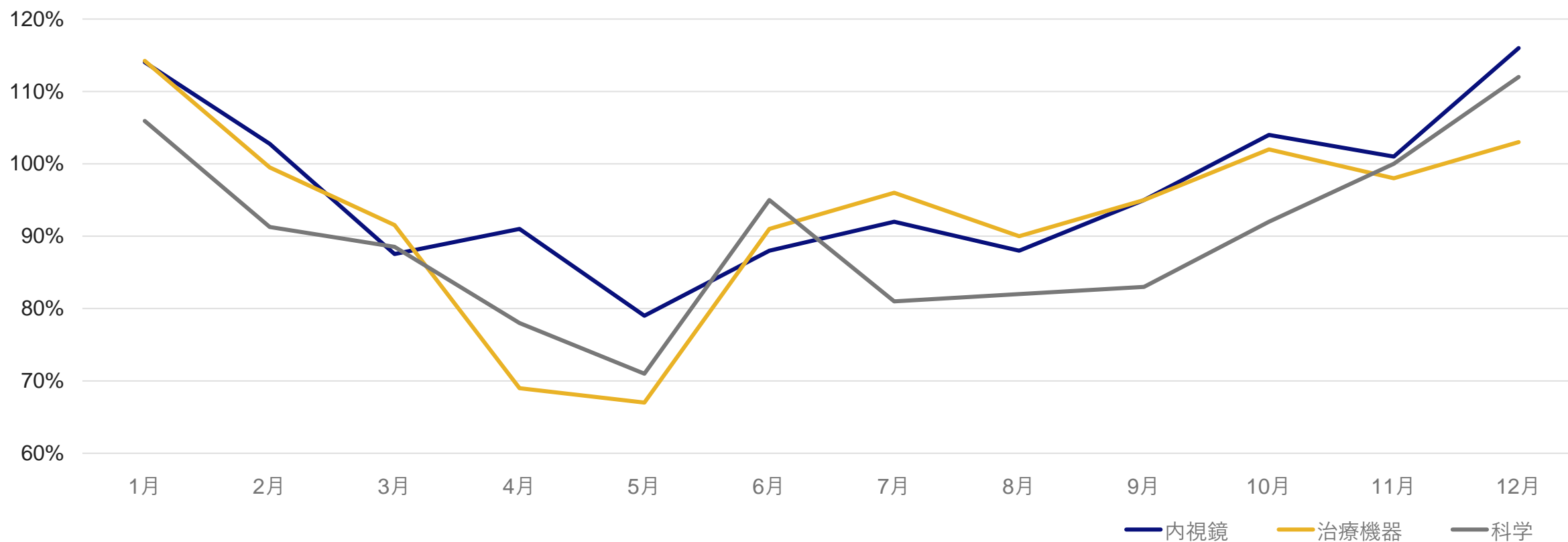
非継続事業

\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載  
 \*\*COVID-19の影響がなければ、前年実績は達成できたという前提で、為替影響、その他損益、一時要因（内視鏡・処置具の自主回収費用）を除いた前年同期と比較して算出

# 1月-12月の状況

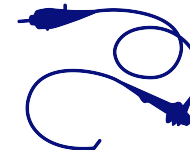
10月以降も全事業で着実に売上は回復。内視鏡事業と科学事業は12月に2桁成長  
内視鏡事業は欧州と中国で好調に推移、科学事業は中国で生物・工業用顕微鏡の売上増加が要因

売上高前年同月比\*

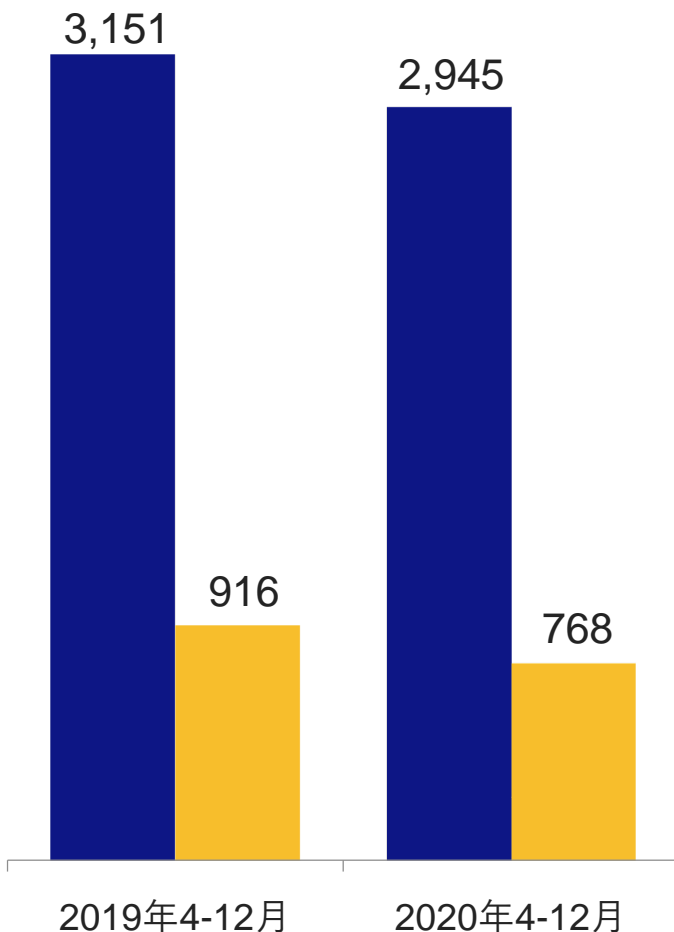


\*為替影響調整後

# 2021年3月期 第3四半期実績 ②内視鏡事業



■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



## ✓ 売上高

- 累計：新型コロナウイルスの影響により、減収
- 3Q：英国、東欧が牽引する欧州が2桁成長を実現したこと、および昨年増税後の反動減があった日本も寄与し、増収

## ✓ 営業利益

- 累計：3Qにかけて売上が回復し、2Qから収益性が改善
- 3Q：増収と販管費の抑制により、増益。営業利益率は約31%

第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	3,151	2,945	▲7%	▲5%
営業利益	916	768	▲16%	▲12%
その他の損益*	▲6	▲13	-	-
営業利益率	29.1%	26.1%		26.8%

第3四半期実績 (10-12月)

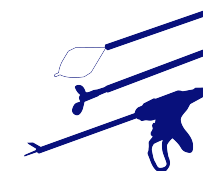
FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
1,083	1,124	+4%	+6%
318	347	+9%	+11%
▲4	▲8	-	-
29.3%	30.9%		30.9%

### ご参考

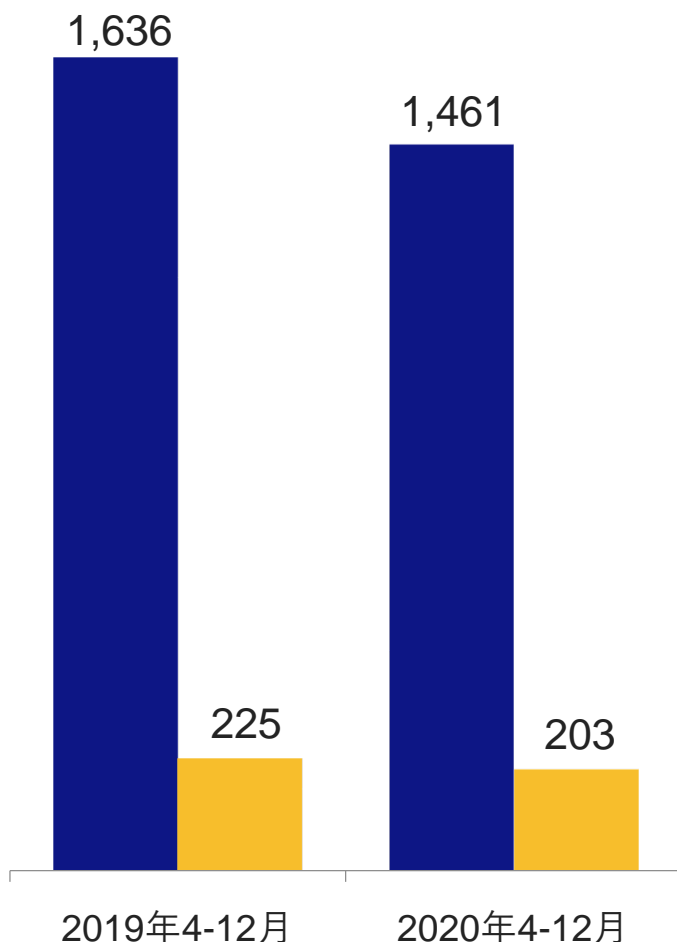
	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q
売上高前年同期比	▲17%	▲8%	+4%
為替影響調整後	▲14%	▲7%	+6%
営業利益率	18.5%	26.7%	30.9%
為替影響調整後	19.4%	28.2%	30.9%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

# 2021年3月期 第3四半期実績 ③治療機器事業



■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



## ✓ 売上高

- 累計：新型コロナウイルスの影響により、減収
- 3Q：アジア・オセアニアや日本を中心にプラス成長を実現したことに加え、症例数は回復傾向が続いており、前年並みの水準を確保

## ✓ 営業利益

- 累計：減収および処置具の自主回収費用(約20億円)を計上し、減益
- 3Q：売上の回復と販管費の抑制により大幅増益。営業利益率は約18%

第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,636	1,461	▲11%	▲9%
営業利益	225	203	▲10%	▲4%
その他の損益*	▲11	▲7	-	-
営業利益率	13.8%	13.9%		14.6%

第3四半期実績 (10-12月)

FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
556	552	▲1%	+1%
73	101	+38%	+40%
▲4	▲3	-	-
13.2%	18.3%		18.4%

### ご参考

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q
売上高前年同期比	▲27%	▲6%	▲1%
為替影響調整後	▲24%	▲6%	+1%
営業利益率	3.8%	16.6%	18.3%
為替影響調整後	4.5%	18.0%	18.4%

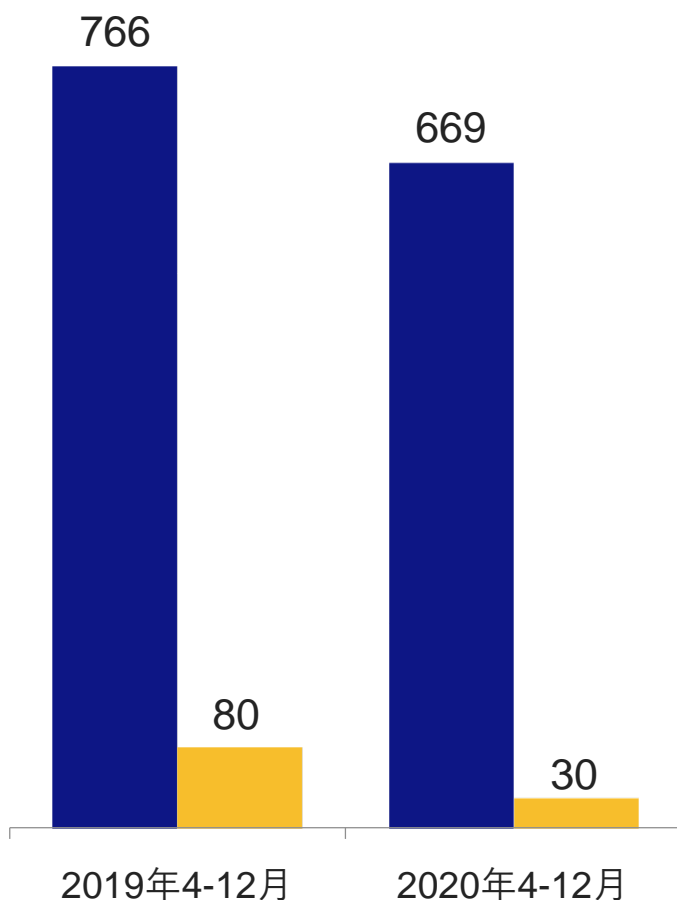
\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値



# 2021年3月期 第3四半期実績 ④科学事業



■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



## ☑ 売上高

- 累計：中国の生物顕微鏡や工業用顕微鏡が好調に推移した一方、航空機産業等での設備投資意欲の減退や販売活動の制約を受け、減収
- 3Q：市況の回復に伴い、予算執行及び設備投資状況に改善が見られ、生物顕微鏡が好調に推移し、前年並みの水準

## ☑ 営業利益

- 累計：減収および生産拠点の操業度低下を要因として減益
- 3Q：販管費の効率化およびその他の損益の改善により増益

### 第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	766	669	▲13%	▲11%
営業利益	80	30	▲63%	▲54%
その他の損益*	▲5	0	-	-
営業利益率	10.5%	4.4%		5.5%

### 第3四半期実績 (10-12月)

FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
269	266	▲1%	+1%
26	27	+4%	+7%
▲2	0	-	-
9.8%	10.3%		10.3%

### ご参考

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q
売上高前年同期比	▲21%	▲17%	▲1%
為替影響調整後	▲18%	▲17%	+1%
営業利益率	-	8.1%	10.3%
為替影響調整後	-	10.0%	10.3%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

# 財政状態計算書

- ☑ M&Aを実施したことにより、のれんが増加
- ☑ 新型コロナウイルスの影響を鑑み、安定的な事業運営のため手元流動性を確保

(単位：億円)	2020年3月末	2020年12月末	増減額		2020年3月末	2020年12月末	増減額
流動資産	5,067	5,539	+472	流動負債	3,338	2,956	▲382
棚卸資産	1,676	1,595	▲81	社債及び借入金	810	263	▲547
売却目的で保有する 資産	63	250	+188	売却目的で保有する 資産に直接関連する 負債	42	250	+208
非流動資産	5,090	5,513	+423	非流動負債	3,099	4,538	+1,438
有形固定資産	2,021	2,076	+55	社債及び借入金	1,999	3,332	+1,333
無形資産・その他	2,085	2,107	+22	資本	3,720	3,558	▲161
のれん	983	1,329	+346	自己資本比率	36.5%	32.1%	▲4.4pt
<b>資産 合計</b>	<b>10,157</b>	<b>11,052</b>	<b>+896</b>	<b>負債及び資本合計</b>	<b>10,157</b>	<b>11,052</b>	<b>+896</b>

有利子負債：3,595（2020年3月末比+786）

# 連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： M&Aの実施により400億円の支出があり、260億円のマイナス  
 なお、定期預金400億円の預入を含むため、実質のFCFは140億円のプラス
- ☑ 財務CF： 長期借入や社債発行による調達により、520億円のプラス

## 第3四半期実績（4-12月）

(単位：億円)		2020年3月期	2021年3月期	増減	
継続事業	売上高	5,613	5,136	▲478	
	営業利益	847	647	▲200	
	営業利益率	15.1%	12.6%	▲2.6pt	
	非継続事業	営業キャッシュフロー	1,057	890	▲167
	投資キャッシュフロー	▲450	▲1,150	▲700	
	フリーキャッシュフロー	607	▲260	▲867	
	財務キャッシュフロー	▲290	520	+809	
	現金及び現金同等物期末残高	1,448	1,877	+428	

\*非継続事業のキャッシュフローはAppendix（P.26）をご覧ください

# 02

---

## 2021年3月期 通期業績見通し

# 通期見通し ①連結業績

- 1 第3四半期の好調な業績を踏まえ、売上高および営業利益を上方修正
- 2 その他の費用に社外転進支援制度実施に伴う費用約120億円を織り込む
- 3 当期利益は、85億円の黒字に転換

(単位：億円)

	2021年3月期 11月13日公表見通し	2021年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	2020年3月期 通期実績**
売上高	6,970	1 7,200	+230	+3%	7,552
売上総利益 (売上総利益率)	4,370 (62.7%)	4,555 (63.3%)	+185	+4%	4,828 (63.9%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	3,660 (52.5%)	3,540 (49.2%)	▲120	▲3%	3,812 (50.5%)
その他の収益および費用等	▲105	2 ▲220	-	-	▲94
営業利益 (営業利益率)	605 (8.7%)	1 795 (11.0%)	+190	+31%	922 (12.2%)
税引前利益 (税引前利益率)	585 (8.4%)	755 (10.5%)			866 (11.5%)
継続事業からの当期利益	475 (6.8%)	605 (8.4%)			606 (8.0%)
非継続事業からの当期利益 (損失)	▲530	▲520			▲89
当期利益	▲55	3 85			517
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	▲55 (-)	85 (1.2%)			517 (6.5%)
EPS	▲4円	7円			39円

**2021年3月期配当**  
年間配当10円を予定

\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載 \*\* 監査前の数値です

\*継続事業

非継続事業

# 通期見通し ②セグメント別業績

- 1** 内視鏡・科学： 第3四半期の業績を踏まえ、売上・営業利益ともに上方修正
- 2** 治療機器： 第3四半期で大幅な増益を実現をしたことを踏まえ、営業利益を上方修正
- 3** 全社消去： 販管費の抑制を行うも、社外転進支援制度実施に伴う費用を織り込み、修正

単位：億円		2021年3月期 11月13日公表見通し	2021年3月期 通期見通し	増減	前回見通し比
内視鏡	売上高	3,950	<b>1</b> 4,150	+200	+5%
	営業利益	880	1,050	+170	+19%
治療機器	売上高	2,020	2,020	0	0%
	営業利益	230	<b>2</b> 250	+20	+9%
科学	売上高	930	<b>1</b> 940	+10	+1%
	営業利益	35	40	+5	+14%
その他	売上高	70	90	+20	+29%
	営業利益	▲30	▲25	+5	+5億円
全社・消去	営業利益	▲510	<b>3</b> ▲520	▲10	▲10億円
連結合計	売上高	6,970	7,200	+230	+3%
	営業利益	605	795	+190	+31%
(参考) 非継続事業	売上高	200	210	+10	+5%
	営業利益	▲530	▲520	+10	+10億円

# 03

---

真のグローバル・メドテックカンパニーへの  
飛躍に向けて

## FY2021

持続的な成長に向けて、真のグローバル・メドテックカンパニーへの転換を加速させる好機



事業ポートフォリオ  
の選択と集中



固定費の  
構造改革



次世代消化器  
内視鏡 EVIS X1の  
確実な市場導入



今後の成長を  
牽引する製品  
開発への着実な  
投資継続



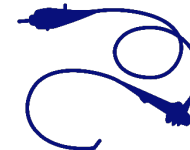
効率的な  
研究開発

### ☑ 着実に施策を実行しており、今後も企業改革を推し進める

- 日本産業パートナーズ株式会社に映像事業の譲渡が完了
- 次世代消化器内視鏡「EVIS X1」を欧州・アジア一部地域、日本で発売（内視鏡CADプラットフォーム「ENDO-AID」を発売）
- 医療分野の成長に向けて複数のM&Aを実施（消化器科：Arc Medical Design社、呼吸器科：Veran Medical Technologies社、整形外科：FH ORTHO社、外科：Quest Photonic Devices B.V.社）
- 社外転進支援制度の実施
- 販売体制強化のため、国内販売機能を再編



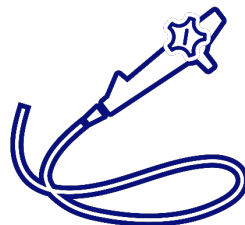
# プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2021年2月12日時点)



## 経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化



リユース内視鏡の競争優位性の堅持  
継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡によるポートフォリオ  
拡充  
リユース内視鏡を補完する製品ラインアッ  
プの提供

### Growth driver now

#### 消化器内視鏡

- EVIS LUCERA ELITE (日本、中国)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE II\* (米国、欧州、日本)
- VISERA ELITE (中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

### Just launched / Coming soon

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本)
- 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V (米国)
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (欧州)

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国)
- VISERA ELITE II 3D機能 (中国)

### Beyond

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EVIS X1 3D機能
- シングルユース十二指腸内視鏡

#### 外科内視鏡

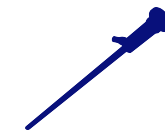
- VISERA ELITE II IR機能 (中国)
- 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)

~6%

内視鏡事業  
年平均成長率\*\*

\*米国は2D機能のみ、欧州、日本は3D機能/IRを含むフルローンチ済 \*\*2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR

# オランダ医療機器メーカー、Quest Photonic Devices B.V.社を買収



先進的な蛍光イメージング技術を獲得、次世代分子イメージング技術に向けた研究・開発を推進

外科イメージングの技術進化

Present

高画質・3D

蛍光イメージング

分子イメージング

- 近赤外光と蛍光色素を組み合わせ、血流に流れている蛍光薬剤が光ることにより、細胞下の血管などを可視化

- 蛍光薬剤と特定の抗体を組み合わせ、薬剤が特定の臓器などに集積する性質を活用することにより、がん細胞を可視化

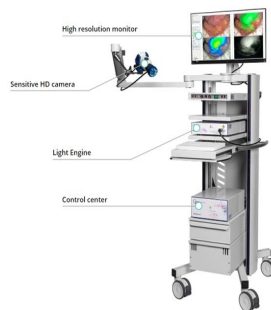
VISERA ELITE II



腹腔鏡

OLYMPUS

Spectrum®



腹腔鏡・開腹



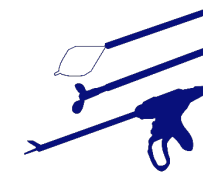
Quest社の強み

- 先進的な蛍光イメージング技術
- 様々なバイオテクノロジー企業と次世代分子イメージング技術を共同研究・開発中



研究・開発

# プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2021年2月12日時点)

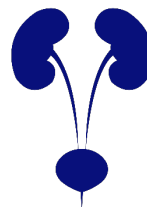


## 経営戦略：治療機器事業への注力と拡大



### 消化器科

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



### 泌尿器科

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



### 呼吸器科

BLVR\*市場をリードしつつ、肺がんの早期診断、処置の分野で成長拡大

## Growth driver now

### 消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

### 泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス

### 呼吸器科

- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

## Just launched / Coming soon

### 消化器科

- 5製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 10製品 (日本)
- 5製品 (中国)

### 泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

### 呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)

## Beyond

### 消化器科

- シングルユース胆道鏡

### 泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

### 呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

~8%

治療機器事業  
年平均成長率\*\*

\*Bronchoscopic Lung Volume Reduction \*\*2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR



## Veran Medical Technologies社の買収により呼吸器科の製品ラインナップを強化

- ☑ オリンパスの呼吸器科製品とVMT社の電磁ナビゲーションシステムを組み合わせることにより、早期肺がんの診断により一層貢献



電磁ナビゲーションシステム

- ☑ オリンパスはVMT社の買収により、VMT社がVathin社と締結していたシングルユース気管支鏡に関する5年間の契約（米国における販売権およびシングルユース気管支鏡の共同開発）を獲得

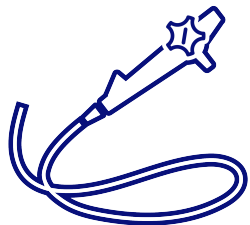


# リユース内視鏡とシングルユース内視鏡に対する基本認識

オリンパスは、内視鏡のマーケットリーダーとして、リユース内視鏡およびシングルユース内視鏡の総合的なポートフォリオを構築し、症例に応じて、すべての患者さんに最適なソリューションを提供



観察性能や、身体の中への（大腸等への）挿入や治療における操作性などへの高い要求性能とコストがバランスしているリユース内視鏡へのニーズは引き続き高い



シングルユース内視鏡は、シングルユース内視鏡ならではの価値がある領域で成長が見込まれているこの領域に、シングルユース内視鏡のラインナップを追加

☑ 感染管理に対する要求

☑ 耐久性に対する要求

☑ 症例特有の需要



十二指腸鏡



胆道鏡 / 尿管鏡



気管支鏡

**OLYMPUS**

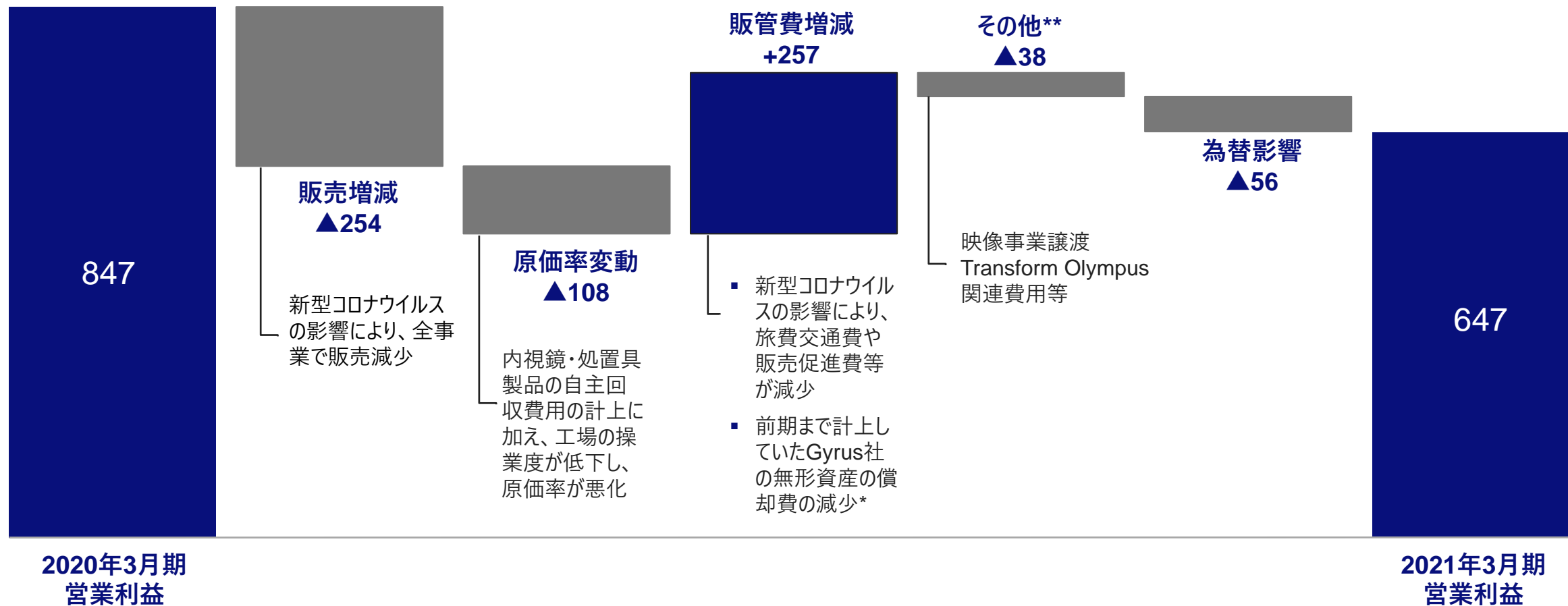
A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

# 04 Appendix

---

# 参考資料：2021年3月期 第3四半期実績 ①連結営業利益増減要因

## 第3四半期累計実績（4-12月）



(単位：億円) \*Gyrus社の無形資産の償却はFY2020に終了 \*\*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています



# 参考資料：2021年3月期 第3四半期実績 セグメント別概況

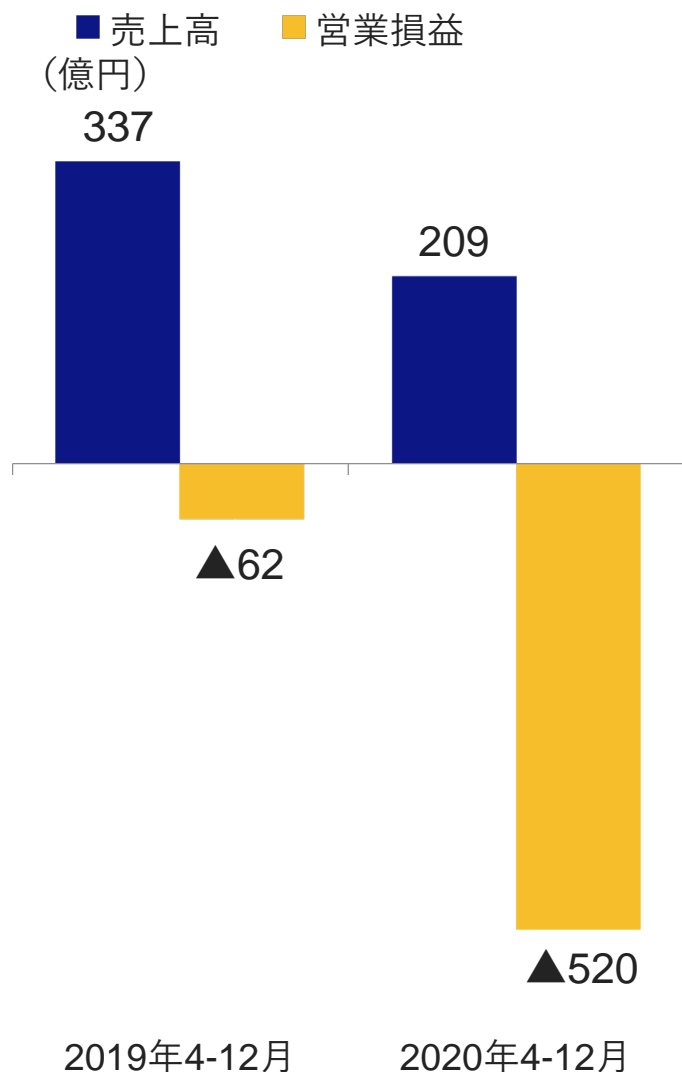
第3四半期累計実績（4-12月）

単位：億円		2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	3,151	2,945	▲7%	▲5%
	営業利益	916	768	▲16%	▲12%
治療機器	売上高	1,636	1,461	▲11%	▲9%
	営業利益	225	203	▲10%	▲4%
科学	売上高	766	669	▲13%	▲11%
	営業利益	80	30	▲63%	▲54%
その他	売上高	60	60	0%	0%
	営業利益	▲19	▲15	+4億円	+4億円
全社・消去	営業損益	▲355	▲338	+17億円	+17億円
連結合計	売上高	5,613	5,136	▲9%	▲7%
	営業利益	847	647	▲24%	▲17%
(参考) 非継続事業	売上高	337	209	▲38%	▲38%
	営業損益	▲62	▲520	▲458億円	▲459億円

第3四半期実績（10-12月）

2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
1,083	1,124	+4%	+6%
318	347	+9%	+11%
556	552	▲1%	+1%
73	101	+38%	+40%
269	266	▲1%	+1%
26	27	+4%	+7%
21	28	+30%	+30%
▲6	▲6	0億円	0億円
▲123	▲125	▲3億円	▲2億円
1,929	1,971	+2%	+4%
289	344	+19%	+23%
129	72	▲45%	▲45%
▲13	▲35	▲22億円	▲22億円

# 参考資料：2021年3月期 第3四半期実績 非継続事業 (映像事業)



- ✓ **売上高** 新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、減収
- ✓ **営業損益** 譲渡関連費用447億円により、営業損失を計上

第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	337	209	▲38%	▲38%
営業損益	▲62	▲520	▲458億円	▲459億円
その他の損益*	▲14	▲447	-	-
営業利益率	-	-	-	-

第3四半期実績 (10-12月)

	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	129	72	▲45%	▲45%
営業損益	▲13	▲35	▲22億円	▲22億円
その他の損益*	▲3	▲8	-	-
営業利益率	-	-	-	-

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

ご参考

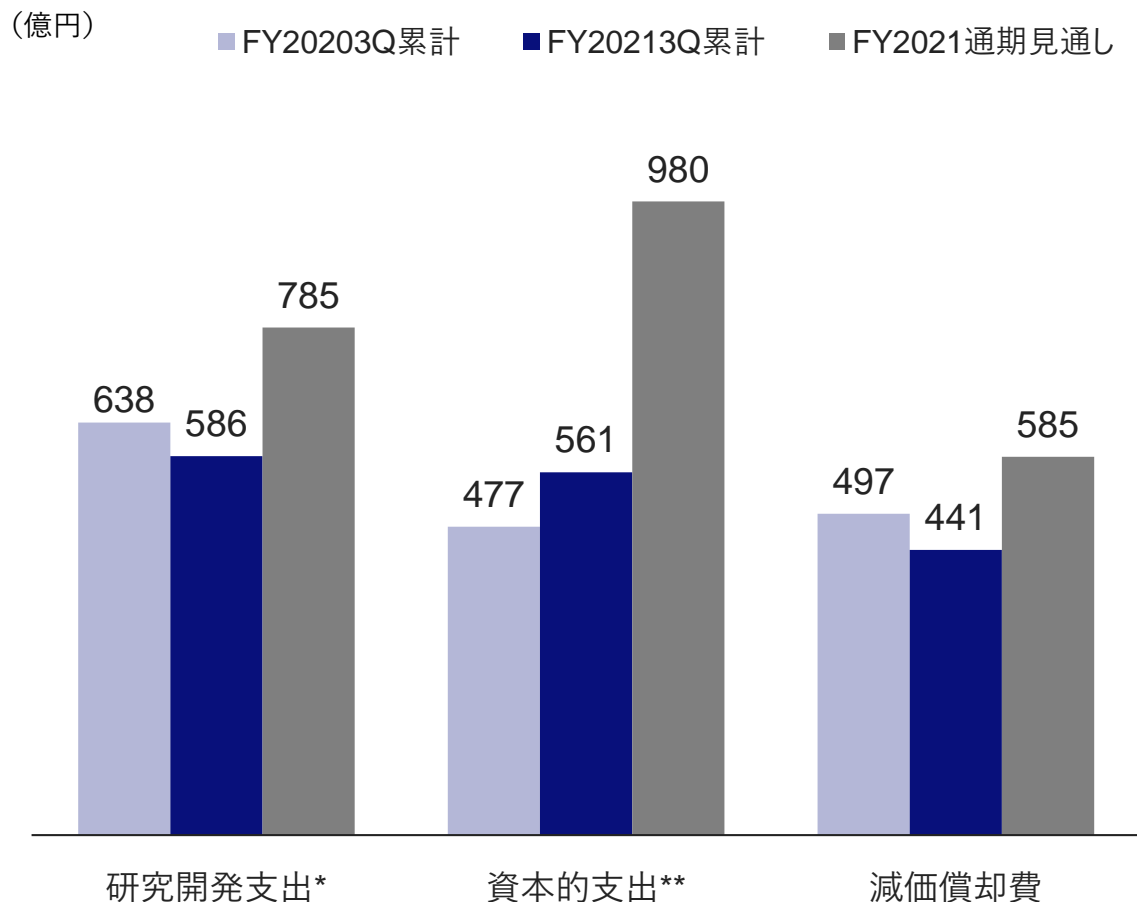
	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q
売上高前年同期比	▲41%	▲26%	▲45%
為替影響調整後	▲39%	▲26%	▲45%
営業利益率	-	-	-

非継続事業のキャッシュフロー 第3四半期実績 (4-12月)

	FY2020	FY2021	増減
営業キャッシュフロー	▲34	▲30	+5
投資キャッシュフロー	▲20	▲9	+12
財務キャッシュフロー	▲0	▲1	▲0

# 参考資料：投資等

## 第3四半期累計実績（4-12月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2020 3Q累計	FY2021 3Q累計
研究開発支出* (a)	638	586
開発費資産化 (b)	144	116
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	495	470

(単位：億円)

	FY2020 3Q累計	FY2021 3Q累計
償却費	51	64
	2020年9月末	2020年12月末
開発資産残高	513	531

\*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

\*\*資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

また、2020年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用权資産が含まれています  
(FY20203Q累計：69億円、FY20213Q累計：178億円、FY2021通期見通し：370億円)